

令和3年度 江戸川区立鹿骨東小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

<p>学校教育目標</p>	<p>○思いやりのある子…互いの人格を尊重し、心豊かな子 自己肯定感の高い子の育成 ○健康で明るい子…安全で健康な生活を心がけ、体力のある子の育成 ○よく考えくふうする子…自ら学び、深く考える子の育成 ○ねばり強くやりぬく子…目標をもち、最後までやり遂げる子の育成</p>	<p>目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像</p>	<p>○笑顔があふれる学校…児童が学ぶ楽しさが味わえ、成長を実感できる学校、保護者や地域にとって、誇りと信頼がもてる学校、教職員が教育者として喜びが味わえる学校を目指します。 ○元気で活力ある学校…児童が健康・安全・安心にすごせる環境作りと体力向上を目指します。 ○創造力のあふれる学校…児童も教職員も学ぶ意欲と創造力をもち、課題に挑む学校を目指します。</p>
<p>前年度までの学校経営上の成果と課題</p>	<p><成果>コロナ禍の中、本校の教育全般については、学校評議員・地域関係者・保護者等からおおむね理解を得ることができました。おやじの会、図書ボランティア、グリーンボランティア、登校見守り、鹿骨東小学校ふるさと学習などについて地域や保護者と連携した教育活動を展開し、協働することができました。 <課題>放課後補習等日常的に行う体制を整え全校で取り組んでいるが、学力の数値目標が達成できていない。さらに特別支援教育の充実が課題である。</p>		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	放課後補習教室の実施…2年～6年生(24～26回) 各学期にベネッセグループ診断テスト実施 家庭学習期間の実施:年4回	診断テスト結果 家庭学習カードの提出10割	A	B	東京ベネッセテストでは、7月より12月の方が高い結果になったのは9学級で、その内3学級は5ポイント以上高い結果になった。低学年だけでなく高学年でも成績が上がっている学級がでてきているので、引き続き取り組み、効果を上げたい。	B	・良い取り組みをされていますが、時間のかかるテーマなので、今後に期待します。 ・成果も出ている。今後も継続を。	・九九マスター等基礎力の向上を図っていく。 ・放課後補習教室を来年度も風光に活用していく。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実(読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等) ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	図書館を活用した探究的学習を取り入れた授業…各学期1回以上(12時間以上) 図書館スーパーバイザー、図書ボランティアの活用による学校図書館の整備の推進 図書館を使った調べる学習コンクールの参加	調べたことを成果物としてまとめる児童9割 児童アンケートで学校図書館の活用に肯定的な回答9割	A	C	朝読書や給食後の読書タイムなど児童らが読書に親しむように取り組むことはできている。しかし、タブレットで手軽に調べることが多くなったため、図書室を使っての探究学習の良さをうまく伝えられていない。読書科などの時間に図書室利用する良さを味わわせるようにするとともに、本によって調べる良さも味わわせるようにしていく。	B	・本に親しむ大切さを教えて欲しい。タブレットの使い分けが大切。 ・本のよさを味わわせる事は難しいと思いますが、続けて取り組んで欲しいと思います。	・図書館司書を有効活用して読書の楽しさや調べ方のポイントを継続指導していく。 ・タブレットとの使い分けも継続指導していく。
	体力の向上	・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	計画的に行う密にならない体育の授業の実施 基礎体力向上動画の公開(運動委員会作成) 密にならない大運動会期間の実施	児童アンケートで、運動を進んでいるに肯定的な回答児童8割	A	A	児童アンケートによる運動に対する肯定的な回答が8割以上の学級が11学級あり、運動意欲の高い学級が多い結果になった。肯定的な回答率が低い学級でも75%あり、前回の結果より底上げされた。	A	・コロナ禍に大切な取組です。 ・目標をほぼ達成している事や結果の底上げができてはよい。 ・今後も継続的な指導を。	・コロナ禍における体育授業の質の向上を目指していく。 ・運動器具の研究と購入
	オリパラ教育の推進	・「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組、「学校2020レガシー」の設定やオリパラコーナーの充実	「オリンピック・パラリンピック教育レガシープラン」に基づいた授業…35時間	児童アンケートでやり遂げた喜び・将来への夢や希望に肯定的な回答9割 オリンピック・パラリンピックに興味・関心が高まった児童9割	A	C	東京オリパラでは、テレビ観戦をするなどしっかり取り組むことができた。本大会から間が空いてしまったからか、アンケート結果は8割以上が5学級にとどまった。冬季オリンピックにでも興味をもたせるようにする	B	・大会後も障害のある人に特別視せず思いやりの心がもてるように。 ・興味をもって取り組んで欲しい。	・引き続き「5つの資質」の育成を目指し、教育計画に位置付けていく。
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	昼休みにおけるハロータイム(英語遊び)の活用 外国語専門講師との緊密な連携	児童アンケートで英語の学習が楽しいと答える児童9割	A	B	昼休みのハロータイムの活用により低学年から高学年まで英語に興味をもち楽しみながら話している様子が随所に見られるようになった。しかし、高学年になると授業への意欲の減退が見られる。より魅力ある授業づくりが課題である。	B	・英語に興味をもち楽しめるような教育をしてください。 ・英語に興味をもつ子供が増えているのはよいこと。今後も継続を。	・外国の講師やALTと連携して話せる英語を目指し計画をたてる。 ・ハロータイム等授業以外の活動も継続する。
	健全育成に向けた取組の強化	・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チャイルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	Q-Uの実施…年間2回(1回は学校独自調査) いじめ未然防止授業…各学期1回以上 いじめ防止「東っこ行動宣言」の作成掲示…通年 SOSの出し方指導…5年生1回 校長講話…年3回 児童アンケート…年3回 生活指導夕会による情報共有…毎週金曜日 スクールカウンセラーの全員面接…全学年 SSWの活用…全学年 「学級SNSルール」「東小子どもルールブック」「東小家庭学習の手引き」「東小家庭学習がんばりカード」の作成と活用…年4回 情報モラルについての学習…各学年1回以上 学年単位の挨拶運動…年6回以上 あいさつマスターの実施…年3回	児童アンケートで地域や学校であいさつをしているかについて肯定的な回答が9割 学校満足度調査(Q-U)による満足度の割合が全国平均を超える学級9割 いじめの早期解決 継続0% 不登校継続数昨年度比減少	A	A	Q-Uは、2学期末にも調査をし、1回目の調査からの推移を分析することでクラスの実態をより正確に把握することができた。2回目のQ-Uでは、学校生活意欲の友達関係、学級の雰囲気、2項目において全学級が全国平均を上回った。(学習意欲の項目においては全国平均を下回る学級がいくつかあった。)その他取り組みは計画通り行った。その成果として、トラブルを早期発見し、指導解決することができた。(全学級)さらにタブレットPCを活用したり、担任が働きかけたりすることによって、不登校児童が登校できるようになってきた。今後も生活指導部を中心組織的に活動していく。	A	・いじめ、トラブルの早期発見に努力されていることの成果が出ている。今後も継続して欲しいと思います。 ・Q-U調査で全国的なレベルを上回っているのはよい。学校生活が不満足でないというのはよかったです。 ・年間2回行い変化の様子を丁寧に確認しているのはよいことだと思う。継続して欲しい。	・Q-Uの年2回調査を継続するとともに、ふれあい月間等を有効に活用する。 ・いじめ対策委員会を中心として組織的に対応する。 ・週1回の生活指導夕会において迅速に情報交換を行い、全教職員の情報の共有を常に進行。
特別支援教育の充実	特別支援教育の推進	・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	専門員・SC・心理士・巡回指導教員・担任との連携…各学期授業参観・適時授業のユニバーサルデザイン化の推進 個別的教育支援計画・個別指導計画の作成と活用	児童アンケートで学校生活に肯定的な回答8割 学級崩壊なし	A	A	SC、心理士、専門員、介助員で連絡を密に取り、児童の困り感に応じた支援を続けることができていた。アンケートでは肯定的な回答が多かった(8割以上15学級、9割以上11学級)。トラブルが起きたらいち早く解決することができた。これからはトラブルの早期解決を志す。	A	・大変すばらしいことです。 ・連絡が大変スムーズに行われているというのはとてもよい。	・担任と巡回指導教員との連携を緊密に行っていくとともに、研修によって担任のスキル向上を図る。
教員の資質向上	教員研修の充実	・学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修	教材提示装置やデジタル教科書、タブレットの活用を週3日以上実施 ICTシステムと連携した授業:年5回 目的を明確にしたICT教員研修:年3回	学年に応じて、ICTを活用できる児童の割合8割	A	A	タブレットを日常使っている学級も多く、自信をもって使えている児童も多くなる(肯定的回答97%弱)。より効果的に使えるよう、教員の理解度も上げる必要がある。	A	・タブレット活用のよさを校内で広め効果的に使用しているのはとても良いことだと思う。	・ICT巡回訪問の業者を有効に活用しながら全学級のスキル向上を図る。
	教員の授業力の向上	教育課題実践推進校として『主体的に学び、考え、表現できる児童の育成～SDGsの視点を取り入れた、「できた」「わかった」が聞こえる全員が輝く学校づくり～』チームづくりを研究する	授業観察:年3回以上計84回以上 研究授業:年6回と事前授業10回 OJT研修:年6回以上	児童アンケートで分かる授業への肯定的な回答8割	A	A	全学級で事前研が研究授業を行い、授業改善に努めた。授業が分かりやすいと感じている児童も多い(8割以上15学級、9割以上12学級)。OJT研修もこれまでに5回実施し、これからは教員の指導力を上げるべく研修を重ねる。	A	・授業の工夫や配慮など、少しでも学校生活が楽しめるように先生方が努力されていることに感謝します。 ・OJTの制度はとても良い。	・引き続き来年度も国語の校内研を行っていく。 ・授業観察やOJT研修も継続して行っていく。
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	連携教育プログラムに基づいた小中の授業協議…年1回 6年生の体験授業・部活体験の実施連携…年1回	児童アンケートで中学生になることに希望をもつ児童(6年)9割	B	A	小学校中学校連携教育プログラムは感染予防の為実践できていない。それでも多くの6年生(97%弱)が中学生になることに希望をもっている。	A	・独自に小中連携を行っているのはとても良いことです。 ・6年生の97%が中学校へ良い思いをもっているのは非常によい。	・コロナ禍が継続していても、中学校からの出前授業等を中心に小中連携を行っていく。
	地域を生かした教育の推進	地域の自然や人材を活用した教育活動の実施	PTAと協働した鹿骨東小ふるさと学習プログラム…各学年1回 地域を活用した学習…各学年1回 学校応援団の活用	児童アンケートで地域の人や自然の良さを感じる児童9割	A	A	実施できない行事がある反面、ふるさと学習などはどの学年も実施する。2～5年は無事実施。1年と6年は3学期実施予定。アンケートで肯定的な回答がどのクラスも9割を超えた。	A	・鹿骨東小の特色であると思う。とてもすばらしいです。	・ふるさと教育を全学年で必ず行い、地域に愛着をもつ児童を育てていく。
	SDGs教育の充実	持続可能な社会を創造することを旨とする教育活動の実施	もったいない運動の取組実施全学年 環境を考える学習:各学年1回以上	児童アンケートでもったいない運動への参加に肯定的な回答8割	A	A	校内研究でSDGsに取り組み、教師・児童共に理解が深まった。15学級が8割の数値目標を達成。全体では9割強の肯定的な回答率になった。	A	・子供がよく理解して実際に行動しているのが偉いと思う。 ・SDGsを知らないことから社会で生きていけない。必要なことだ。	・本年度の研究を土台として、さらに修正を加えながら計画的に行っていく。